

2015年10月20日 月刊第207号 発行/非核の政府を求める石川の会

非核・いしかわ

事務局/石川民医連労働組合気付
〒920-0848 金沢市京町 28-8 TEL076-251-0014
郵便振替口座 00760-0-15689 会報込年会費 3000円

非核五項目

- ① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
- ② 国是とされる非核三原則(つくらず、もたず、もちこませず)を厳守する
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

1面	憲法97条を死守しましょう	井上英夫	5面	2015年日本平和大会への代表派遣	7面	「独標」
2面	9月26日は国連・核廃絶デー	大田健志		輪島市が平和首長会議に加盟しました		錆びついたみらい
3面	石川の被爆者が出版	池田治夫	6面	「父と暮らせば」を観て	齋藤節子	編集室より
4面	原発をなくす石川県連絡会・総会報告	尾西洋子		会員リレーエッセイ: 自分なりの声をあげていきたい	中内晃子	被爆者が描いた体験画展 絵手紙コーナー
						大川陽一 中田喜重 田伏久子

憲法九七条を死守しましょう

代表世話人 井上英夫

皆さんは、憲法九七条をご存知でしょうか。平和的生存権が危機に瀕し、戦争前夜を思わせる今こそ九七条が大事だと思えます。

「この憲法が日本国民に保障する基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であって、これらの権利は、過去幾多の試練に堪へ、現在及び将来の国民に対し、侵すことのできない永久の権利として信託されたものである。」

人権保障は、「人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果」であると明言しています。



4月NY平和行動の折、「人民の、人民による、人民のための政府」の演説のあったゲティスバーグでリンカーンと連帯してきました

「」での「努力」は英文憲法では Struggle で、闘争です。フランス革命、

アメリカ独立戦争はいうまでもなく、日本でも第二次大戦前、人権保障の欠落していた明治、大正、昭和の時代にも人権のための闘いがありました。

自由民権運動はその一つですが、一八八四年(明治一七年)には、私の故郷秩父で明治政府の正規軍との最大の闘いがありました。秩父事件です。こうした過去幾多の闘いのなかで、最も大きな成果として結実したのが、第二次大戦への深い反省を踏まえての**世界人権宣言と日本国憲法**です。

憲法は、アメリカ占領軍、マッカーサーにより与えられたなどという卑屈な俗論を憲法自ら否定しているのです。憲法の**人類的視点**、闘いによってこそ人権・権利は勝ちとれるという**闘争史観**こそ学ぶべきだと思います。(次ページに続く)

輪島市が平和首長会議に加盟

石川の加盟率七八・九%に

(五面に関連記事を掲載)

花鳥風月

戦争法が強行採決された時、あるドイツ人青年の言葉を思い出した▼「ときには労働者たちは勝つこともあるが、それはただ一時的でしかない。

彼らの闘争の本来の成果は、直接の成功ではなくて、労働者たちがますます広く自分のまわりにひろげてゆく団結である▼無名の青年だったカールは一九世紀のなかば、革命運動への弾圧を逃れてイギリスへ渡り、盟友フリードリヒの物心両面からの支援を受けながら、社会変革の理論の探求と実践に生涯をささげる▼三〇歳のカールが前記の言葉を記した著書「共産党宣言」は世界中の人々に読みつがれていき、「聖書に次ぐベストセラー」と言われている。「宣言」はカールとフリードリヒの研究の集大成である大著「資本論」とともに、二〇世紀の世界を大きく動かしていった▼戦争法は強行されたが、廃止するための政権交代をめざす野党共闘が呼びかけられるなど、たしかには終息するどころか、新たな広がりと展開を示している▼まさに、「ますます広く自分のまわりにひろげてゆく団結」が眼前に示されている情勢のもと、一六七年前の青年カール・マルクスの言葉を改めてかみしめたい。(山)

ところが、自民党憲法改正草案では、この**「人権の本質としての『権利のための闘争』**を否定し、九七条は全文削除です。支配者や政府にとって一番「怖く」、敵視しているのが、この闘争史観だからと思います。

そして、平和的生存権とは、「**恐怖と欠乏から免れ平和のうちに生きる権利**」(憲法前文)です。恐怖とは戦争やテロ・暴力であり、欠乏とは飢餓や貧困です。つまり、憲法前文・九条と二五条の生存権は一体となつて平和的生存権を保障しているのですが一緒に葬り去られようとしているわけです。

「戦争に生活保護費を使わないでください」

これは、生活保護の老齢加算復活を求める熊本生存権裁判の原告、八八歳の西村カシさんが、二〇一五年五月八日の福岡高裁の不当判決に対して上告し、闘う決意を示され時の訴えです。

何としても、憲法九七条を死守しましょう。そして、憲法一二条が国民に求めている**「不断の努力」**により、憲法九条、二五条すなわち平和的生存権を保持し、発展させましょう。

9月26日は国連・核廃絶デー

被ばくの真相を伝えよう

核戦争を防止する石川医師の会

九月二十六日、核戦争を防止する石川医師の会では、国連「核兵器の全面的廃絶のための国際デー」を記念した企画を行いました。金沢市内にて白衣の街頭宣伝活動を行い、核兵器の全面的廃絶へ四十二筆の署名をいただきました。その後、近江町交流プラザ



近江町市場前にて白衣の街頭宣伝

に場所を移し午後六時半から 凶連・核廃絶デー記念講演会」として石川県原爆被災者友の会会長である西本多美子さんのお話を聞く会を開催しました。講演会には国際連合広報センターをはじめ、多くの関連団体・マスコミ各社に名義後援を頂きました。

最初の十五分間、石川反核医師の会の取組みについて白崎良明代表世話人から紹介を行い、西本さんのお話を移りました。



記念講演講師の西本多美子さん

冒頭、広島市の地図を用いながら、当時の広島的情景や頻繁に爆撃機が飛んできていた「日常」について、アメリカ側の裏事情を絡めて原爆が投下された経緯をお話されました。そして、八月六日、原爆が投下された当日のお話へと移ります。名前も知らない少年が叫んだ「B 29だ！」の声のおかげで生き残れたことや、当時四歳の西本さんを守ろうと必死だった母の深い愛情、そして原爆投下直後の凄惨たる光景。参加者の皆さんも真剣な表情で聴き入っていました。

石川県では被爆者への差別・偏見もあり、健康手帳の申請をしない人も多く、また医療機関側も被ばく医療への知識がなく診療を断られるというこ

とが多かったということでした。そして、被ばくの影響も決して過去の話ではありません。西本さんは、孫が鼻血を出したときや、体が痛いと言うと「もしや」と思うそうです。

最後に、西本さんは「運動の力」が肝要であり、後世に被ばくの真相を伝えていくこと・核兵器をなくすことの重要性を訴えてお話を締めくくりました。

参加者アンケートには、「これから未来を生きる子どもたちの課題として取り組まなければ」、「実態を知り、行動していきたい」といった感想が寄せられました。

被爆から七十年。被爆者の高齢化も進み、直接被爆証言を聞く機会も少なくなっています。しかし、西本さんがお話されたように、原爆による苦しみや悲しみは過去だけでなく現在もなお続いています。

戦争・核兵器、そして何より被爆者の方々の思いを過去の問題としてしまわないように、また、過ちを決して繰り返すことの無いよう、医師の先生方や市民のみなさんと一緒に活動していく必要があると考えさせられる講演となりました。

(文責：大田健志)

石川の被爆者が出版 『ヒロシマ・ナガサキ あの日、あの時から そして、今』

池田治夫

この冊子は被爆七〇周年慰霊事業の一環として石川県原爆被災者友の会が出版した。収録した記録は、県内在住の被爆者三〇人が厚生労働省に提出した「原爆症認定申請書」から抽出・構成した貴重な被爆証言である。



ヒロシマ・ナガサキ
あの日、あの時から
そして、今

発行にあたって、西本多美子会長は次のように記している。

「一九四五年八月六日広島、三日後の九日長崎に人類史上初めての原子爆弾が投下されて二つの街は消滅しました。・・・この時放出された放射線が生涯、被爆者を苦しめ続けることになりました。」

原爆投下後の街を家族、親戚、友人、知人を探して歩いた人たち、軍の命令

で救援、死体処理、瓦礫の撤去作業などに従事した軍人たち、この人たちを含めた実に多くの人が放射線による健康障害により次々と亡くなっていました。辛うじて生き残った者も七〇年経った今なお、様々なガンと甲状腺機能の異常、肝硬変、心臓疾患等で苦しみ続けています。

被爆者に対する諸施策の中に、原爆症認定制度というのがあるが、唯一、厚生労働大臣が認定するものです。申請疾病が放射線被曝によるものかどうかを審査しますが、大変厳しい基準

の前に認定されるのはとても困難だったため、「どうせ駄目だろう」と諦めて申請しない状況がありました。老境に入り、「あの原爆で健康を壊され人生を狂わされた。このまま黙って死ぬわけにはいかない」との声にこたえて、被団協が集団申請を呼びかけました。

保守的、封建的な石川県で差別と偏見を恐れて隠れるように生きてきたわずか一四〇人程の被爆者の中から申請希望者があったのには驚きました。二〇〇二年七月、この日は初めての全国一斉集団申請日です。多くの報道陣が待ち構える中、六人の申請書を県担当課に提出したのです。

あれから一〇数年の中で三七数人が申請、一八数人が認定されました。

全国では二〇〇三年四月から集団訴訟運動が始まりますが、石川県では一人の提訴者もいませんが、全国の運動の中で認定基準が拡大されたことによつて多数の認定者が出たのです。

しかし裁判に訴えれば認定されたであろう事案も何件か有り、悔しい思いをしています。一人一人の申請内容をお読みいただければ、原爆がどれだけ残酷で非人道的な兵器であるか、おわかりいただけると思います」と出版に至つた経過を記している。

発行に寄せて城北病院の原和人医師は次のように記している。

「二〇〇二年の五月、杖をついた小柄な高齢の男性が、原爆症に関する医師の意見書を書いて欲しいということ私の所にみえられた。その時の所見に「額に2個小さなガラス様のものを触知する。左上腕にガラスの摘出の手術創が二箇所あり。左前腕の皮下に一個小さなガラス様のものを触知する。上腹部正中に胃の手術創を認める」と記載した。彼は、これまでの幾多の病気や人生の苦しみは原爆のせいであり、国に原爆症であると認めて欲しい、額と左前腕に残るガラスの破片、これと一緒に死ぬわけにはいかないと私に訴えた。

私は申請病名に「体内遺物残留」と

記載した。翌年の九月に原爆症と認定され、はればれとした気持ちで私に報告に来られたことをよく覚えている。でも、放射能はその後も彼の身体を奪ってしまった。その後も何人かの被爆者の医師の意見書を書かせていただいた。

被爆者たちは、二度と、自分たちと同じ苦しい経験を繰り返さないためにも、核兵器の廃絶を願っている。広島・長崎の原爆投下の実相を伝えること、そのことが、核戦争の人道的結末の論議に大きな影響を与えている。この小冊子が、そのような役割を果たすことを期待したい」と表明している。

今や石川の被爆者の平均年齢は八〇歳を過ぎ、ピーク時二二〇名であった会員数も現在九二名となっている。

ヒロシマ、ナガサキから生き残った者たちは、人類初の核被害の生きた証人として、そして世界の反核平和の運動のシンボルでもある。この体験と思いを引き継ぎ、語り継ぐための貴重な教材として広く普及したいものである。

(石川県原爆被災者友の会

事務局長・二世部会世話人)

◎本のお問い合わせは同友の会まで

原発をなくす石川県連絡会 二〇一五年度・総会報告

尾西洋子

九月一七日は、おりしも戦争法案（安保関連法）の参院での強行採決を許すかどうか緊迫の日でありました。

四高記念公園前では「戦争法を許さない ピースメント」に仕事を終えた人たちも続々と集まっていました。

総会は、近江町交流プラザで午後七時から開催、八人の呼びかけ人と二五団体、四五人の参加があり、能美市から診療を終え駆けつけてくださった「原発の危険から、子どもを守る北陸医師の会」の吉田均さんの「戦争法も、原発も、アベ政権の暴走も、許さない」との挨拶で始まりました。

七月一七日原子力規制委員会第七回有識者会合は、志賀原発一号機原子炉直下の S・1 断層について「活断層の可能性を否定できない」とする評価書案を了承しました。

新規制基準は、活断層の上に原発の重要施設を設置することを認めていません。志賀原発の原子炉建屋直下を S・1 活断層が走る一号機も、タービン建屋直下と冷却水取水配管の直下

を S・2・6 活断層が走る二号機も再稼働できません。

北陸電力は「活断層ではない」と科学的に証明できなければ廃炉しかありません。

第一部 立石雅昭先生・講演要旨

志賀原発周辺の活断層問題と

今後の取り組み

二〇一二年から四年間にわたって、地元の住民と一緒に志賀原発の周辺断層の現地調査に専門家として中心的役割を果たしてこられた立石雅昭新潟大学名誉教授から「志賀原発周辺の活断層問題と今後の取り組みについて」の講演をいただき学習しました。

最初に四三基の原発のうち二一基で再稼働申請をしている原発の中で、北陸電力の志賀原発がこれだけの材料が揃っており、真つ先に再稼働をスタートし廃炉にしない限り、全国の原発をゼロには出来ない」と指摘され身の引き締まる思いで聞きました。

私も二〇一二年から三年間地主との交渉や崖や海辺をご一緒させていただいてどんどん新しい発見をしていられる先生の真摯な態度に大変感動しました。

現地調査で明らかになった

活断層の存在

立石先生は（全国でも稀な住民運動の人たちとの継続した）四年間の調査で、①原発の北約九kmを走る「富来川南岸断層」は活断層であり一二万年前以降も活動を続けている【海成中段丘の高度分布】②二〇一二年～一三年の調査。③約六千年前（縄文後期）以降も地震性隆起が継続している【海食ノッチの高度分布】④二〇一四年の調査。⑤原発周辺で約二千年前以降に少なくとも四回、能登半島地震クラスの地震で隆起している【ヤッコカンザシ棲管化石の高度分布と年代測定】⑥二〇一五年の調査。以上三つの重要なことを明らかにしたと説明。

原発問題住民運動センターは、この結果を踏まえて五回にわたって原子力規制委員会と北陸電力に申し入れを行い、原発なくす会は県知事への申し入れと県議会に三度にわたって請願を提出してきました。

ところが北陸電力は、中段丘は分布しないとし、ヤッコカンザシ棲管化石の高度分布についても地震に伴う間欠的隆起を否定して地域全体が恒常的に少しずつ隆起した結果と説明している。

北陸電力は更なるデータを出して、この評価を覆そうと試みる。原発利益誘導体全体として、規制委員会

への圧力を強め、全ての原発の再稼働を進めようとするでしょうと指摘され、最後に私達の運動の課題として、①住民団体が明らかにしてきた志賀原発の地震に対する脆弱性を、県民で共有するとともに、こうした調査結果に対する、北陸電力並びに原子力規制委員会の真摯な対応を求める県民ぐるみの運動が必要。

②原子力規制委員会に設けられた有識者会合での「重要構造物直下の断層は活断層の可能性を否定できない」との評価は、尊重されるべき、規制委員会は「規制基準」に沿って、基準に不当の判断を早急に示すべき。という運動を、県民ぐるみの運動にしていくことの重要性を提起されました。

第二部 総会

長曾輝夫事務局長が福島原発事故から四年半、収束には程遠い状況の中で、川内原発の再稼働を認め、原発増設を含む政府のエネルギー基本計画など、原発をめぐる情勢と私達の一年間の取り組みと財政報告、これからの運動方針では防災計画の実効性の無さなどの問題点も指摘し、改めて廃炉の決断を北陸電力や県知事に求め、署名、宣伝、学習運動を大いに起こそうと提案、活発な討論がされました。

ピーステントから駆けつけた佐藤正幸県議は、再稼働を許すかどうかの決定権を持つ谷本知事は「学者の見解だけで決まらない」と有識者の結論を「推論に基づくもの」と記者の質問に答えている。県議会で知事の姿勢について「科学を否定するような乱暴な議論と言わざるを得ない」と質したところ、知事は「十三万年前に遡って調べるなんて不可能なこと、推論にどれだけの説得力があるのか」と答弁したことを紹介すると会場は驚きでざわめきました。

改めて、立石先生と住民運動の一連の調査で志賀原発と原発敷地周辺が地震動による地殻変動の激しいところ、に立地していることを明らかにしたこれらの科学的根拠を広く県民共有のものにし、廃炉を求める県民世論を高める運動強化を位置付けていくことの大切さをかみしめました。

一月八日(日)、金沢市文化ホールで開催する「福島支援・原発ゼロ・志賀原発廃炉を求める県民集会」を四〇〇名以上の参加者で成功させようと呼びかけがあり、松浦健伸・石川民医連会長が閉会の挨拶を行いました。

◎立石雅昭先生の講演資料「志賀原発の耐震安全性―住民が取り組んできた断層調査」の主要点を同封します。

二〇一五年日本平和大会
神田順一事務局長を
代表派遣します

一〇月三十一日～十一月一日、静岡県御殿場市で開催される、日本平和大会は「戦争法・沖縄・オスプレイ・日米安保」などの課題を抱え、どうしたら平和な日本がつかれるか全国の運動と交流し展望を学び広げることで開催されます。

非核石川の会は神田順一事務局長を代表派遣することを決定しました。石川県代表団の一員として参加します。

募金のお礼とお願い

前号で代表派遣の募金をお願いしましたところ、早速八人様から一万九五〇〇円が寄せられました。

お礼を申し上げご報告いたします。引き続き活動支援の募金を継続しておりますので、よろしくお願ひいたします。

非核の政府を求める石川の会
常任世話人会

輪島市が
平和首長会議に加盟しました

平和首長会議ホームページの一〇月一日付新着情報に石川県輪島市(梶文秋市長)など「新たに三七自治体が平和首長会議のメンバーに加わりました。これにより、加盟都市数は世界一六一か国・地域六、八五七都市となりました」と掲載されました。

平和首長会議への国内自治体加盟は九一・四％に達しています。

本紙前号で紹介したように九月に羽咋市、宝達志水町、能登町が、十月に輪島市が平和首長会議に加盟し、県内自治体の加入率は七八・九％に増えました。北信越各県と比べても石川県の加入率の低さが際立っています。引き続き、未加盟自治体における動向を注視していきましょう。

●加盟自治体Ⅱ金沢市、七尾市、輪島市、珠洲市、羽咋市、白山市、かほく市、野々市市、内灘町、川北町、津幡町、志賀町、宝達志水町、中能登町、能登町

●未加盟自治体Ⅱ小松市、加賀市、能美市、穴水町

北信越各県別平和首長会議加盟状況
(2015年10月1日現在)

県名	市			町			村			計		
	総数	加盟	加入率	総数	加盟	加入率	総数	加盟	加入率	総数	加盟	加入率
新潟県	20	20	100.0%	6	6	100.0%	4	4	100.0%	30	30	100.0%
富山県	10	10	100.0%	4	3	75.0%	1	—	0.0%	15	13	86.7%
石川県	11	8	72.7%	8	7	87.5%	—	—	—	19	15	78.9%
福井県	9	9	100.0%	8	7	87.5%	—	—	—	17	16	94.1%
長野県	19	19	100.0%	23	23	100.0%	35	35	100.0%	77	77	100.0%
計	69	66	95.7%	49	46	93.9%	40	39	97.5%	158	151	95.6%

非核・平和のひろば

金沢市民劇場第三二六回例会

「まつ座公演

「父と暮らせば」を観て

斎藤節子

劇は雷が鳴るたび怯え頭を抱え込む娘の姿から始まる。数年たつても被爆が娘の生活を脅かしていることが、父を幽霊として現出させる。これは演能のような作劇といえるかもしれない。

娘はピカで死んだ人たちに申し訳ないと自分の恋を封じようと懸命になる。幽霊の父は娘の頑なさに言葉を尽くしてほぐしていく。その過程は切ないほどだ。

日本語はこんなにも切実に熱く親子が思いを互いにぶつけられるのだ。そして井上ひさしが常に机上に貼っていたという「むずかしいことをやさしく、やさしいことを深く、ふかいことをおもしろく」とおりコミカルな劇でもあった。

雨漏りの時、井、洗面器、バケツ、たらいなどに雨の当たるさまざま

音、家中にハタキを掛けてまわる父の姿はおかしかった。

新聞に沖繩戦で壕を焼きつくす火炎砲の音が掃除機の音に似ているため、今も自宅を拭き掃除しかできないという記事があった。

戦争は、たとえ命を奪われずとも七〇年たとうがその体と心を傷め続けるのだ。ヒロシマ・沖繩その他どこであれ戦争は人を人でなくし、永劫にわたつて苛む。二七万冊の蔵書を持つていたこの劇作家はそれを資料や取材で知り尽くしていたにちがいない。

運営担当になると劇の入場券(シール)を会員サークルの代表者に取りに来る日に、渡す仕事がある。その日は係が六、七人いた。シール配布が一段落したら、おしゃべりが始まった。

正信偈も唱えるという人が「お寺の説教でも、この頃の政治おかしいと言われたわ：なんか変やと私も思う」と言い始めたら延々一時間はその話が途切れることがなかった。

「私ら、もうすぐ死ぬ身やからいいけど、孫たちがねえ！」と別の人が言ったら異口同音に「ほうや、ほうや」と声が上がった。

私はそこにいる人たちの名前はほとんど知らない。それでも腹藏なく話

作品を仲立ちにして人と出会い、そこでできた空気の中で自在に言葉が交わせる不思議で面白い会だなあと思えた一コマだった。

(金沢市民劇場会員)

非核石川の会 リレーエッセイ

自分なりの声をあげて

いきたい

中内晃子

賢くなりたくないな。子どもの頃から、

何度そう思ってきたか。様々な場で人と議論したり訴えさせてもらったりしていますが、私って、なんというか、感覚で動いていると思います。何か言った後に人の意見を聞いて、自分の根拠のなさ、考えの浅さによく気づいたり。それなのに偉そうにしている。みなさん、いつも申し訳ありません。でも、この「感覚」は大切にしたい。

うれしいこと、好きだなと感じること、なんだかおかし、嫌だと思ふこと。そんなことに対して、自分なりの声をあげていききたいと思うのです。

大学時代四年間参加していた全国医学生ゼミナール。壇上から「いいことにはいいと、おかしと思うことにはおかしと、きちんと言いたい」と

話しました。この時の気持ちを忘れたくないと思っています。

私の毎日はこちらです。子どもとの生活、薬剤師の仕事(パートですが)、新婦人の活動、子ども劇場、育友会、子ども会、もたらろ倶楽部、お天兔、結の会・・・

春に参加させてもらったNPT再検討会議ニューヨーク行動。そこに向けて核廃絶の署名を一二〇〇筆集めました。一年間いつもカバンに入れて、様々な場で、日々出会う人たちに少しずつ訴えてきました。小さなやりとりを重ねる中で、核廃絶への確信、そして自分が正直に生きていくことのできる環境が広がったように思います。

人と一緒にいても、自分の心の奥で考えていることは、なかなか出しにくい。うまく言葉にできず、伝えるタイミングを逃してしまうこともあります。一步ふみこんだところを話せるような人とのつながりが、少しずつひろがっていくとよいですね。誰にとっても。

虫の声を聞きながらこの文章を書いていますが、こんなふうに安心して今を過ごせる幸せ。これを守っていくためにも、またがんばろーかな。

詩人会議かなざわ「独標」より

錆びついたみらい

大川陽一

原子力 明るい未来のエネルギー
心からそう信じた十二歳の少年は
海辺のわが町の標語をつくった
チエルノブイリ事故の翌年
商店街のゲートに
おおきな立て看板があらわれた
ようこそ げんしりよくのみらいへ
ぼくらのじだいは バラいろだ
町民たちは
誰もが誇らしかった

それから二十五年
夢から醒めた町

商店街には 誰も来ない
主を無くした犬たち
役目を終えた柱時計
乗客のいない駅
愛でる人のいない桜並木

子どもたちよ
祝福されて生まれた君たちの
これが世界だ
日本の国だ

百年後

千年後

商店街と立て看板は

錆びついて

苔と羊歯に覆われ

いつか砂に還るだろうか

少年の夢は

どこに帰ればいいのだろう

《編集室より》

◎戦争法成立に関して「國破れて山河あり」と言うのと「都は破壊されたが、自然は元のまま」という意味だから違う。「夏草や兵どもが夢の跡」と言うのと「往時を偲ぶしみじみとした気持ち」だからこれも違う。どこが違うのかと言うと、情熱的な怒りだ。

心理学の辞書には情熱とは「持続する感情のこと」「情念と情操のレベルを一括したもの」などと書かれている。とにかく「持続性」が情熱に欠かすことのできない条件らしい。

その情熱を支えるものは何か。それは理想だ。では理想とは何だろうか。

それは「そう簡単には実現できそうにもないけれども、だからこそ是非でも実現すべき目標として、知の力」によって未来に設定された目標」それ

が理想であろう。そして「それが高く深く大きなものであればあるほど、それを持続的に追求するものとしての情熱が生ずる」のだと思う。

「どうせ：無意味」などと無力感にさいなまれることが多いけれども、ならば努力を放棄し、快感原則に従い、利他的生き方を選択するのではなく、「理想や情熱を持ちつつ、粘り強く、誇り高い人生を歩むのが人間の尊厳」であろう。

稀代の悪法を忘却させようとする策動が既に始まっている。あの情熱的な怒りはただの浮気であってはならない。理想と情熱が試されている。(中)

◎今号原稿なくす会の総会報告文中の谷本知事発言に『啞然』とした。科学者が手弁当で現場を歩き具体的なデータに基づき、科学的に解明し発表されたことを「一三万年前に遡って調べることは不可能とし、推論にどれだけ説得力があるのか」と切って捨てた。学問として『地質学・層序学・堆積学・構造地質学・古生物学・他』等があることを知っての発言だろうか。知事はこれらの学問を研究された科学者の研究成果も切り捨てる積りなのか。県民の知事として一科学者の見解であっても謙虚に耳を傾けるべきではありませんか。残念。(平)

◎本紙では、会員・読者の声を紙面に反映するため、二〇一二年二月号より「リレーエッセイ」を続けています。毎号三人に原稿依頼し、これまで七六人の会員から寄稿いただきました。それぞれ思い、生き様がよく分かれると評判も上々です。編集部では会員への原稿依頼がほぼ一巡しましたので、『会員エッセイ集』の年内発行をめざしています。乞うご期待。(か)

非核の政府を求める石川の会

未入会のあなたへ

核廃絶運動を「一箱」!

会員になっていただくと……

●毎月発行している本会会報『非核・いしかわ』及び非核の政府を求める会ニュース(全国版)をお送りします。
●会報やニュースなどを通じて、非核・平和をめぐる情勢、会の活動や県内、全国各地の反核・平和団体の動き、県内各自治体の平和施策などをお知らせします。

●年会費は会報やニュース代を含んで次の通りです。

三、〇〇〇円(会費一、五〇〇円＋機関紙代一、五〇〇円)

◎入会申し込みは本会事務局まで

「被爆者が描いた体験画展」⑬

石川県原爆被災者友の会 中田喜重

長崎市坂本町



原爆のため、片足になった山王神社の鳥居と、大学病院の焼け跡。周囲の山も茶褐色に焼けていた。焼け木を拾って掘立小屋を建てた。道路には、死体がうず高く積まれていた。

◎この「被爆者が描いた体験画展」の絵は、一九七七年七月金沢市内で展示会が開かれた折りに中田喜重さんが撮影され、文は書き写されたものです。

昭和二十一年春



「生命力を一〇〇年間奪われた」と言われた被災地にも、かすかな緑が甦った。

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班

田伏久子



《非核平和・行事予定》

月	日	曜	時	内容	場所
10	23	金	18:30	学習講演・自治体消滅論・地方創生戦略に対抗して真の地域再生を 講師・今西清さん 自治体問題研究社編集部員	金沢市近江町交流プラザ4階
31日(土)~11月1日(日) 2015年日本平和大会in富士山					静岡県御殿場市
11	4	水	18:00	れんこんシネマ劇場・映画「忘れられた島の闘い」	石川勤医協会館3階
	6	金	12:00	核廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵Mza前
7日(土)~8日(日) 「平和の旅パート13」京都・航空自衛隊経ヶ岬分屯基地と伊根町					問い合わせ先・石川県平和委員会
	8	日	13:30	福島支援・原発ゼロ・志賀原発廃炉を求める石川県民集会 学習講演(安斎郁郎さん)とパレード	金沢市文化ホール2階集会室
	19	木	16:00	戦争法廃止・ピーステント	いしかわ四高記念公園入口
	29	日	14:00	石川県保険医協会/原発・いのち・みらい講演会 講演おしどりマコ・ケンさん・漫才を武器に原発事故を追い続ける	金沢都ホテル5階 問い合わせ・石川県保険医協会
	29	日	17:00	小立野・犀川ロード九条の会講演・奥田知志さん 助けてと言える社会を	金沢市笠舞・金沢キリスト教会
12	3	木	18:00	憲法改悪反対石川県民集会(講師 小林節さん)	金沢市文化ホール
	6	日	14:00	いしかわ自治体問題研究所2015年度総会・記念講演 (講師:保母武彦さん)	ANAホリディン金沢スカイ
	9	水	12:00	核廃絶署名6・9行動	金沢市武蔵Mza前
	19	土	14:00	戦争法廃止・ピーステント	いしかわ四高記念公園入口

* 祝日は休日としています * れんこんシネマ劇場は民医連内平和委員会れんこんの会主催です

* 毎週金曜日 18:30 どいね原発アピール行動 金沢駅東口

* 「戦争法廃止・ピーステント」は、毎月19日(強行可決された日)に来年の参議院選挙に向けて2016年6月まで行われます